

平成15年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ケンサキイカ

学名 *Loligo edulis*

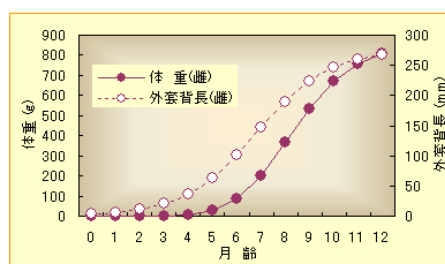
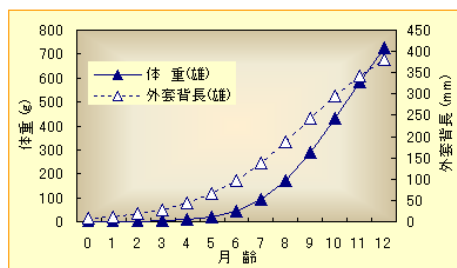
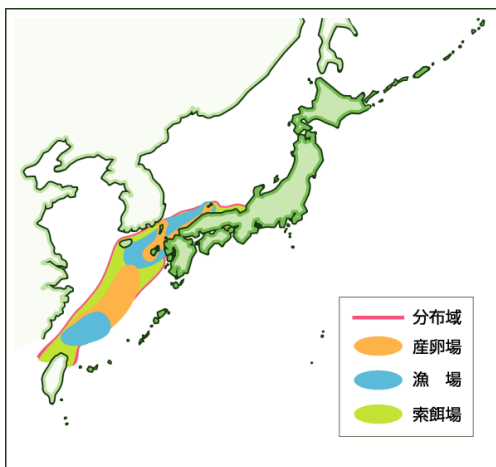
系群名 日本海・東シナ海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特徴

- 寿命： 1年
成熟開始年齢： 外套背長70～80mm（約5ヶ月）
産卵期・産卵場： 周年産卵するが、産卵盛期は春・夏・秋、主に沿岸域で卵塊が発見されており、砂地を好んで産卵する
索餌期・索餌場： 1年を通して分布海域で索餌を行う
食性： 小型の魚類、甲殻類、軟体類を捕食、小型個体では主に甲殻類を捕食、成長に伴い魚類を主体に捕食
捕食者： 不明

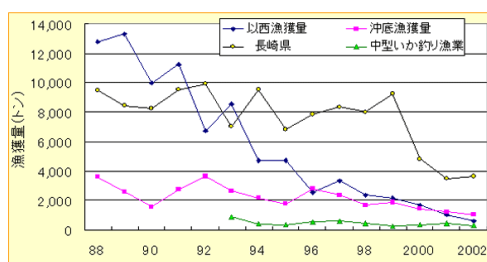
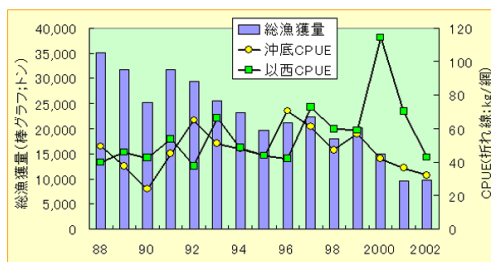


漁業の特徴

日本海西部では釣り、沖合底びき網漁業を主体に漁獲が行われている。沖合底びき網漁業の漁場は長崎県沖合から山陰沖にかけて広範囲である。東シナ海では、以西底びき網漁業が主体で漁獲を行っているが、近年の漁船隻数の減少により漁獲量が減少した。1980年代後半から1万トンを超える高い水準にあった以西底びき網漁業による漁獲量は、漁船隻数の減少とともに減少し、2002年には約600トンとなった。中型いか釣り漁業は6～10月に東シナ海南部で操業するが、2002年は総漁獲量が297トンで、全体に占める割合はあまり大きくない。沿岸域では長崎県いか釣り漁業による漁獲が高い割合を占めている。

漁獲の動向

沿岸・沖合域を合わせた漁獲量は1993～1999年は毎年2万トン前後の漁獲量があったが、2000年には14,956トン、2001年には9,590トンと大幅に減少した。沿岸域でも2000年以降、漁獲の不振が続いており、2001年には1999年から比べると漁獲量が半減し、2002年も低水準が続いている。



資源評価法

沖合域でおもに行われる以西底びき網漁業、沖合底びき網漁業および沿岸域でのいか釣り漁業の漁獲動向から資源動向を判断した。沖合底びき網漁業では漁獲努力量に若干の減少傾向が見られることから、CPUE（努力量あたり漁獲量）を資源動向の指標と考えた。以西底びき網漁業でも、努力量が急減していることから、CPUEを資源状態の指標として考えた。沿岸域については各県代表港におけるいか釣り漁業CPUEおよび漁獲量を資源状態の指標として考えた。

資源状態

沖合底びき網漁業のCPUEは1996年以降減少傾向が続いており、低い水準にある。一方、以西底びき網漁業のCPUEは2000年までは増加傾向が続いていたものの、その後減少しており、低い水準にある。各県代表港におけるいか釣り漁業のケンサキイカ漁獲量およびCPUEはばらつきがあるものの、最近5年間では減少傾向にあり、低水準にあるものとみられる。これらの動向から、資源水準は低位、資源動向は減少と判断した。



管理方策

ケンサキイカ日本海・東シナ海系群の資源水準は低位で、資源動向は減少しているとみられることから、現在的水準よりも漁獲圧を減らし、高水準にあった1999年以前の資源水準に回復させることを管理目標とした。沿岸域で漁獲量に大きな割合を占める長崎県いか釣り漁業代表港におけるCPUEの減少率を参考にし、平均漁獲量とその変化率を考慮した0.58、また安全率を考慮した0.8を用いてABCを算定した。

	2004年ABC	管理基準	F 値	漁獲割合
A B C limit	66百トン	0.58Cave3-yr	-	-
A B C target	53百トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 沿岸域では漁獲の不振が続いている
- 日本海西部の沖合域でおもに操業する沖合底びき網漁業でも1997年から若干のCPUEの減少傾向が見られる
- 東シナ海では以西底びき網漁業によるCPUEの低下がみられた

資源管理方策のまとめ

- 管理目標は1999年以前の高い水準に回復させること

資源評価は毎年更新されます。